

長寿医療研究開発費 2025年度 総括研究報告

認知症の人および軽度要介護者の重度化予防とウェルビーイング向上に資する包括的実証研究（24-21）

主任研究者 島田 裕之 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
(センター長)
(斎藤 民 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 部長)

研究要旨

本研究は、軽度要介護者および認知症者を対象として、重度化予防、ウェルビーイング向上、在宅生活の継続に関連する要因を明らかにすることを目的とした。知多北部4市町において、新規に要支援1～要介護1と認定された者を対象とする発端コホートを構築し、質問紙調査、対面調査および公的データとの突合を進めた。軽度要介護者コホートでは1,346人のベースラインデータを整備した。また、もの忘れ外来受診者を対象とする認知症者コホートでは、公的データとの突合により約1,500人の追跡可能なデータセットを構築した。今後、追跡調査データ、介護給付費情報、要介護認定調査情報および診療報酬明細情報を統合し、身体的、心理的、社会的要因と予後との関連を検証する。これにより、本人および家族介護者の視点を重視したケアモデルと地域支援の構築に資する知見の創出を目指す。

主任研究者

島田 裕之 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
(センター長)
(斎藤 民 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 部長)

分担研究者

宇田 和晃 国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 (研究員)

A. 研究目的

要介護状態や認知症と診断された後も、本人が住み慣れた地域で安心して日常生活を営み、社会参加を継続できる共生社会の実現が求められている。そのためには、医療・介護サービスの提供のみならず、地域づくり、社会参加の促進、居場所づくり、家族支援、認

知症に対するスティグマの軽減、居住環境の整備等を含む総合的な取組が必要である。特に、軽度要介護認定者および認知症者の増加が見込まれるなか、要介護状態の重度化を予防するとともに、身体的、心理的、社会的側面を包含するウェルビーイングの向上と在宅生活の継続を支えることが重要となる。

しかし、軽度要介護者および認知症者の予後に対する医療・介護サービスの効果については、十分に明らかになっていない。また、既存研究の多くは、入院患者やサービス利用者を対象としており、医療・介護サービスに関する要因に焦点が当てられる傾向にある。そのため、疾患管理、心身機能、生活習慣、社会参加、社会関係、意思決定への参加、介護環境、家族介護者の負担感や不安、居住環境の質等を含め、本人および介護者の視点から多面的に検討した研究は限られている。さらに、予後に関連する要因を適切に検証するためには、要介護認定時や認知症診断時に近い時点から追跡を開始し、セレクションバイアスや因果の逆転の影響を可能な限り軽減する研究デザインが必要である。

そこで本研究では、疾患や障害の発生に近い時点から追跡を開始する発端コホート研究（inception cohort study）の枠組みを用い、軽度要介護者および認知症者を対象として、要介護状態の重度化、ウェルビーイング、在宅生活の継続を主なアウトカムとし、それらに関連する要因を包括的に明らかにすることを目的とする。

具体的には、①新規に軽度の要介護認定を受けた者を対象とする要介護者コホート、②新規に認知症と診断された者を対象とする認知症者コホートを構築する。これらのコホートデータと医療・介護レセプトデータを突合し、医療・介護サービスの利用状況やケア関連要因に加え、本人の生活習慣、身体活動、社会参加、社会関係、居場所、意思決定への参加、食習慣、居住環境、家族介護者の介護負担や不安等を含む多様な要因と予後との関連を検証する。

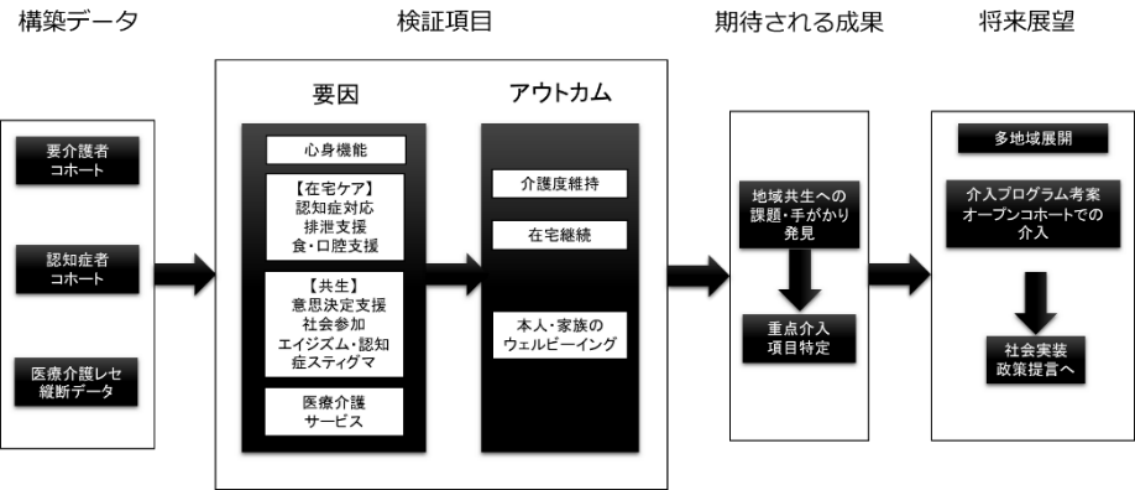


図 1.研究概要

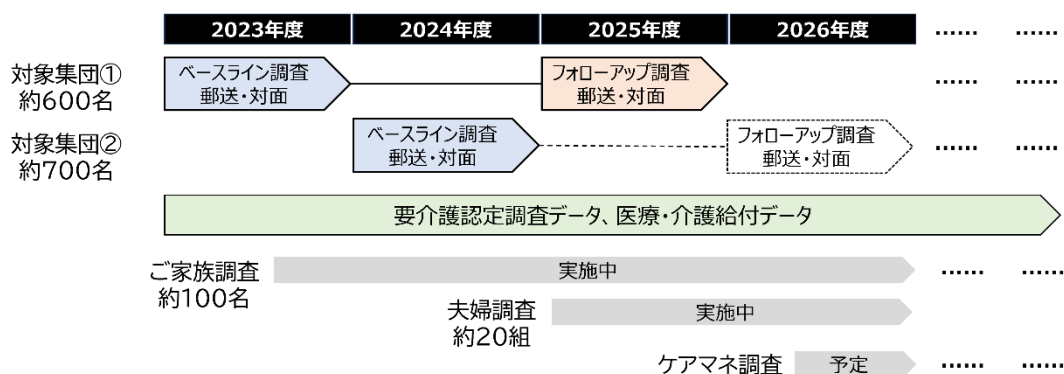
B. 研究方法

1. 軽度要介護認定者コホート研究（寄り添い調査）

知多北部 4 市町において、新規に要介護認定を受けた要支援 1 から要介護 1 までの軽度要介護者およびその家族を対象とする発端コホート研究を実施した。対象者は、2023 年 8 月から 2024 年 7 月末までの 1 年間に新規に軽度の要介護認定を受けた者のうち、調査実施時点における死亡者および転出者を除く者とした。対象者に対して郵送による質問紙調査を実施するとともに、自宅または国立長寿医療研究センターの会場における対面調査への参加希望の有無を確認した。

郵送調査では、軽度要介護者の心身機能、生活状況、社会生活およびウェルビーイングを多面的かつ包括的に評価するため、以下の項目を調査した。基本属性として、年齢、性別等を把握した。総合的な健康状態および生活機能の評価には、基本チェックリストおよび後期高齢者質問票を用いた。生活習慣に関する項目として、健診受診歴、飲酒、喫煙、身体活動等を把握した。また、身体的側面として、筋力低下、尿失禁等に関する項目を調査した。さらに、社会的側面として、外出状況、社会参加、社会的孤立、孤独感等を評価した。心理的側面については、人生満足度、主観的ウェルビーイング等を把握した。対面調査への参加を希望した対象者に対しては、自宅または会場において追加の評価を実施した。

寄り添い調査 | 調査全体像



老年医学・公衆衛生・心理・社会福祉・リハビリテーションなどの多様な専門分野の研究者が協力しながら、自治体および対象者本人とその家族の主体性を重んじた研究を実施。

1-1. 2年後追跡調査

2023 年度に構築した軽度要介護認定者コホート 614 名を対象として、ベースライン調査から 2 年後の追跡調査を実施した。追跡調査に先立ち、知多北部 4 市町に対して調査実施に関する広報依頼および調整を行った。また、ベースライン調査との整合性を維持しつつ、対象者の回答負担を考慮して、質問紙のレイアウト調整および一部調査項目の削除を行っ

た。

2025 年 10 月 1 日に、追跡用の質問紙および対面調査への参加希望を確認する調査票を郵送し、回答期限を同年 10 月 31 日とした。追跡調査では、ベースライン調査と比較可能な項目を用いて、心身機能、生活状況、社会参加、心理的状态、ウェルビーイング等の変化を把握することとした。

1-2. 公的データの収集および突合

軽度要介護者の中長期的な予後を把握するため、知多北部 4 市町に対して、介護給付費情報、要介護認定調査情報等の個票データの利用申請を行った。自治体から提供を受けた公的データについて、コホートデータとの突合を進め、解析用データセットの構築を開始した。

1-3. 解析用データセットの整備

コホートデータ、質問紙調査データ、対面調査データ、介護レセプトデータおよび要介護認定調査データを突合し、解析用データセットの整備を進めた。解析用データセットでは、要介護度の悪化、施設入所、介護費、医療費等を予後指標として把握できるように進めた。これにより、軽度要介護者の重度化、ウェルビーイングおよび在宅生活の継続に関連する要因について、本人および家族の視点を含む調査データと、公的データに基づく客観的な指標の双方から検討できる基盤を整備した。

(倫理面への配慮)

本研究は、「軽度要介護者と家族の重度化予防・予後改善に資するコホート：寄り添い調査」として、国立長寿医療研究センター倫理・利益相反委員会の承認を得て実施した（受付番号：1740）。

2. 認知症者コホート

当センターもの忘れ外来の受診者を対象とする NCGG-STORIES 第一次調査の登録者について、初診時に実施した高齢者総合機能評価等のデータと、自治体が保有する介護関連の公的データとの突合を行った。

2024 年 9 月までに、知多北部 4 市町から、介護給付費情報および要介護認定調査情報の提供を受けた。2010 年から 2018 年までに NCGG-STORIES 第一次調査に登録された 4,952 人のうち、知多北部 4 市町の居住者を対象として、介護給付費情報および要介護認定調査情報との突合を行った。

突合後のデータセットには、死因を含む全死亡、要介護認定の有無、要介護度の重度化、施設入所、介護費等の予後指標を含めた。さらに、初診時の高齢者総合機能評価等のアセスメント項目と予後との関連を検討できるよう、解析用データセットの整備を進めた。

2025 年度には、既に受領したデータに加えて、新たに介護給付費情報および要介護認定調査情報を受領するとともに、後期高齢者医療制度における診療報酬明細情報の提供を受け、医療費を含む予後指標についても検討可能な解析用データセットの構築を開始した。

診療報酬明細情報の対象期間は 2017 年度から 2021 年度までとした。

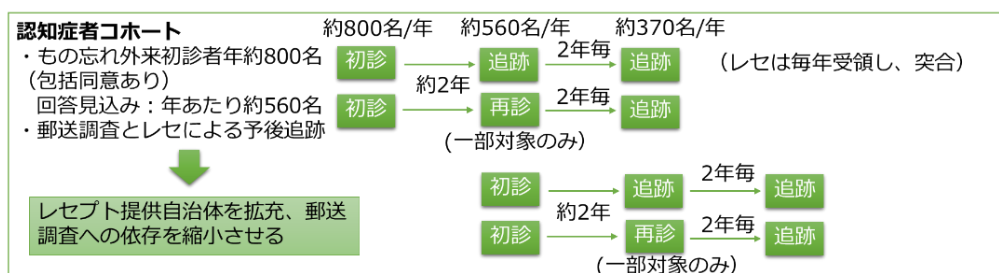


図 認知症者コホートの概要

(倫理面への配慮)

本研究は、「公的データと NCGG-STORIES の連結データを活用した認知症者の予後及び医療・介護サービスの利用に関する研究」として、国立長寿医療研究センター倫理・利益相反委員会の承認を得て実施した (受付番号：1738)。

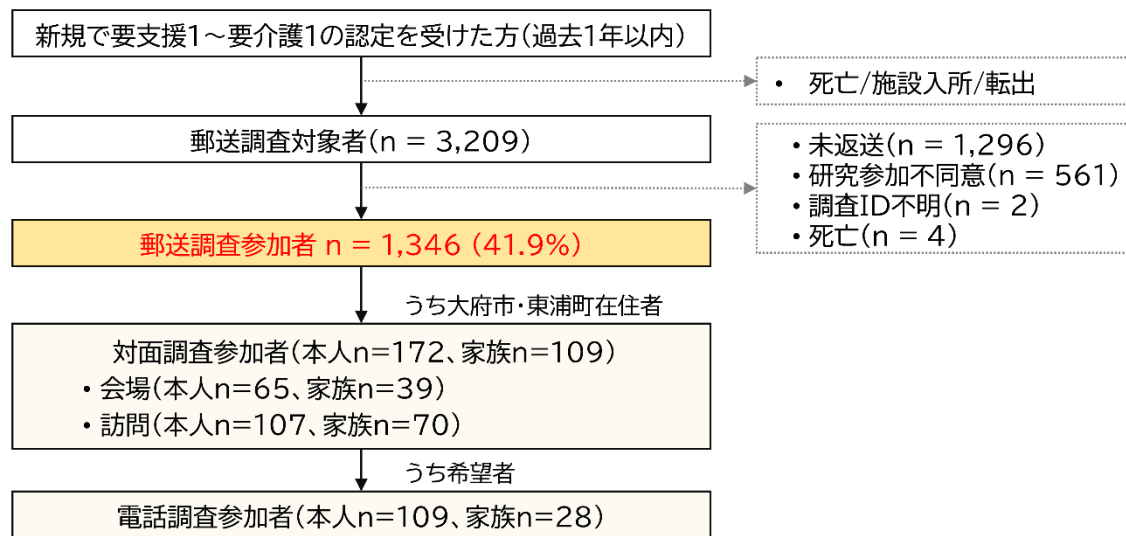
C. 研究結果

1. 軽度要介護認定者コホート

知多北部 4 市町との調整を行い、2023 年 8 月から 2024 年 7 月末までの 1 年間に新規に要介護認定を受けた住民のデータを受領した。このうち、要支援 1 から要介護 1 までの認定を受け、調査対象として適格であった 1,730 人に対して質問紙を郵送した。あわせて、自宅訪問または国立長寿医療研究センターにおける対面調査への参加希望を確認した。

調査票を郵送した約 1,730 人のうち、未返送者、研究参加に同意しなかった者、ID を確認できなかった者等を除き、732 人から有効回答を得た。回収率は 42.3%であった。これら 732 人を 2024 年度のベースライン調査参加者としてリクルートした。2023 年度に実施した同調査の参加者 614 人を加え、合計 1,346 人の軽度要介護認定者を対象とするベースラインコホートを構築した。

結果 | ベースライン調査(2023・2024年度) | 参加者数



解析対象となった軽度要介護認定者は1,346人であった。平均年齢は81.8歳（範囲65～98歳）であり、75歳以上の者は1,160人（86.2%）であった。女性は771人（57.3%）、独居者は327人（24.4%）であった。要介護認定区分は、要支援1が481人（35.7%）、要支援2が432人（32.1%）、要介護1が433人（32.2%）であった。認知症高齢者の日常生活自立度がランクⅡ以上である者は467人（34.7%）であった。

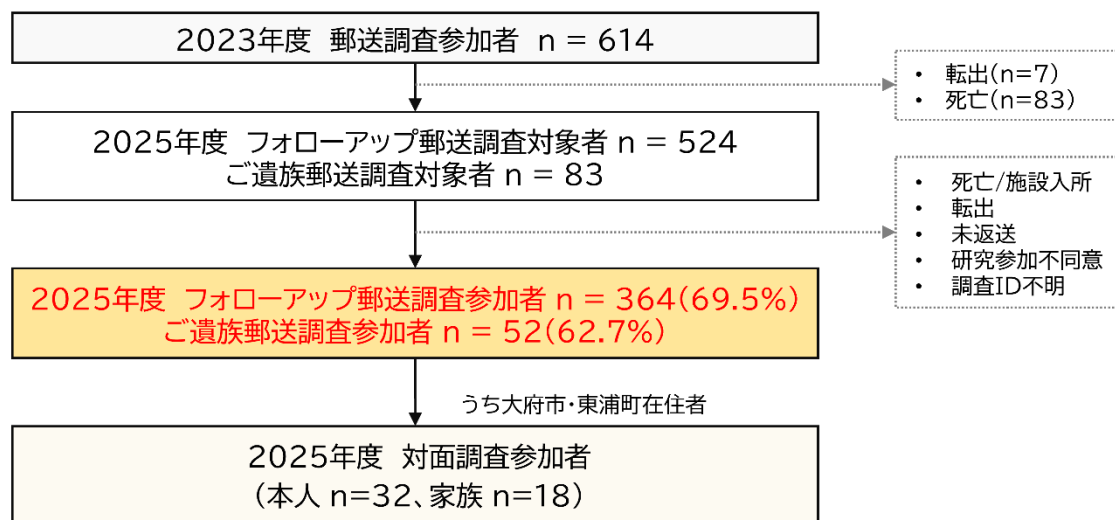
	全体	大府市	知多市	東浦町	東海市
参加者数	1,346	274	427	213	432
年齢、平均 (min-max)	81.8 (65-98)	81.5 (65-98)	81.7 (66-97)	81.3 (67-96)	82.3 (65-96)
75歳以上 (%)	1,160 (86.2)	230 (83.9)	375 (87.8)	176 (82.6)	379 (87.7)
女性 (%)	771 (57.3)	145 (52.9)	235 (55.0)	133 (62.4)	258 (59.7)
要介護度 (%)					
要支援1	481 (35.7)	97 (35.4)	159 (37.2)	71 (33.3)	154 (35.6)
要支援2	432 (32.1)	104 (38.0)	139 (32.6)	58 (27.2)	131 (30.3)
要介護1	433 (32.2)	73 (26.6)	129 (30.2)	84 (39.4)	147 (34.0)
認知症自立度Ⅱ以上 (%)	467 (34.7)	102 (37.2)	139 (32.6)	87 (40.8)	139 (32.2)
独居 (%)	327 (24.4)	69 (25.6)	97 (22.7)	67 (31.5)	94 (21.8)

表 ベースライン調査参加者の基本特性

2023年度のベースライン調査参加者614人を対象として、2年後追跡調査を実施した結果、364人から回答を得た。回収率は69.5%であった。追跡調査により、ベースライン調査時点から2年後までの心身機能、生活状況、社会参加、心理的状态、ウェルビーイング

等の変化を把握するためのデータを収集した。

結果 | フォローアップ調査(2025年度) | 参加者数



2025 年度に実施したフォローアップ調査の郵送調査参加者は 364 人であった。平均年齢は 81.8 歳（範囲 65～97 歳）であり、75 歳以上の者は 308 人（84.6%）であった。女性は 222 人（61.0%）、独居者は 101 人（27.7%）であった。フォローアップ調査時点の要介護認定区分は、非該当が 3 人（0.8%）、要支援 1 が 98 人（26.9%）、要支援 2 が 114 人（31.3%）、要介護 1 が 90 人（24.7%）、要介護 2 が 39 人（10.7%）、要介護 3 が 14 人（3.8%）、要介護 4 または要介護 5 が 6 人（1.6%）であった。認知症高齢者の日常生活自立度がランク II 以上である者は 138 人（37.9%）であった。

知多北部 4 市町から受領した介護給付費情報、要介護認定調査情報等の公的データについて、コホートデータとの突合作業を進めた。突合作業は概ね完了した。一方、データの整理および加工を進める過程で、一部の公的データに欠損または未受領の項目があることが判明した。今後、自治体との調整を継続し、不足データの確認および補完を進めたいうえで、解析用データセットを確定する。

2. 認知症者コホート

NCGG-STORIES 第一次調査の登録者のうち、知多北部 4 市町の居住者を対象として公的データとの突合を行った。その結果、公的データとのマッチング率は約 80%であり、約 1,500 人について、介護給付費情報および要介護認定調査情報に基づく追跡が可能なデータセットを構築した。

公的データと突合できた約 1,500 人のうち、65 歳以下の者および診断日が不明である者を除外し、1,180 人を解析対象とした。診断日を起点として、2023 年まで最大 13 年間の追跡を行った。解析対象者の平均年齢は 79.8 歳（標準偏差 6.0 歳）であった。男性は 754 人

(63.9%)、女性は 426 人 (36.1%) であった。

追跡期間中に、解析対象者 1,180 人のうち 675 人 (57.2%) が死亡した。死亡者における診断日から死亡日までの日数は、平均 1,878.9 日 (標準偏差 1,009.2 日) であった。診断後に要介護認定を受けた者は 331 人であった。これらの対象者における診断日から要介護認定日までの日数は、平均 812.9 日 (標準偏差 777.0 日) であった。

一方、診断前に要介護認定を受けていた者は 261 人であった。これらの対象者における要介護認定日から診断日までの日数は、平均 577.7 日 (標準偏差 573.7 日) であった。すなわち、診断前に要介護認定を受けていた者では、もの忘れ外来における診断の約 1 年 7 か月前から要介護認定が開始されていた。

なお、構築したデータセットの確認作業を行ったところ、一部の公的データに複数月にわたる欠損等の不備が認められた。このため、該当するデータについては自治体に再提供を依頼し、再受領に向けた調整を進めることとした。

D. 考察と結論

本研究では、軽度要介護認定者を対象とする発端コホートと、もの忘れ外来受診者を対象とする認知症者コホートについて、調査データと公的データを組み合わせた解析基盤の構築を進めた。

軽度要介護者コホートでは、要支援 1 から要介護 1 までの軽度要介護認定者を対象として、合計 1,346 人のベースラインデータを構築した。新規に要介護認定を受けた時期に近い段階から対象者を把握し、身体機能のみならず、生活習慣、心理的状態、社会参加、独居等の社会的状況を含めて包括的に評価した点に、本コホートの特色がある。軽度要介護者を対象として、身体的、心理的、社会的側面を多面的に把握した国内のコホートデータは限られており、本研究により得られたデータは、重度化予防およびウェルビーイング向上に資する要因を検討するための貴重な基盤となる。

2025 年度には、2023 年度のベースライン調査参加者を対象とするフォローアップ調査を実施し、郵送調査参加者 364 人のデータを得た。フォローアップ調査時点では、要支援から非該当となった者がみられた一方、要介護 2 以上に移行した者も認められた。今後、ベースライン調査とフォローアップ調査のデータを統合することにより、軽度要介護者の状態変化を把握し、重度化、状態改善、在宅生活の継続、ウェルビーイング等に関連する要因を検討することが可能となる。

さらに、要介護認定調査情報および介護給付費情報等の公的データとの突合を進めることで、質問紙調査のみでは把握が難しい要介護度の変化、介護サービスの利用状況、施設入所、介護費等を客観的に追跡できる。本人および家族の視点を反映した調査データと、公的データに基づく予後情報を組み合わせることにより、軽度要介護者の重度化予防やウェルビーイング向上に資する要因を多角的に検討できると考えられる。また、介入可能な生活習慣、社会参加、心理的要因、介護環境等を明らかにすることで、今後の支援プログ

ラムや介入研究の開発にもつながることが期待される。

認知症者コホートでは、NCGG-STORIES 第一次調査の登録者のうち、知多北部 4 市町の居住者を対象として、介護給付費情報および要介護認定調査情報との突合を行った。公的データとのマッチング率は約 80%であり、約 1,500 人について追跡可能なデータセットを構築した。このうち、65 歳以下の者および診断日が不明である者を除外した 1,180 人を解析対象として、診断日から 2023 年まで最大 13 年間の追跡を行った。追跡期間中に解析対象者の 57.2%が死亡しており、死亡者における診断日から死亡日までの期間は平均約 5.1 年であった。また、診断後に要介護認定を受けた者では、診断から要介護認定までの期間は平均約 2.2 年であった。一方、診断前に要介護認定を受けていた者では、もの忘れ外来における診断の平均約 1 年 7 か月前から要介護認定が開始されていた。これらの結果から、もの忘れ外来を受診する高齢者の経過は一樣ではなく、診断時点で既に介護ニーズを有する者がいる一方、診断後に一定の期間を経て要介護認定に至る者も存在することが示された。

認知症者コホートは、初診時に実施した高齢者総合機能評価等のアセスメント項目と、死亡、要介護認定、要介護度の重度化、施設入所、介護費、医療費等のアウトカムとの関連を検討できる点に意義がある。今後、介護給付費情報、要介護認定調査情報に加えて、後期高齢者医療制度における診療報酬明細情報を統合することで、診断後の医療・介護サービスの利用状況と予後との関連をより包括的に分析できると考えられる。

本研究には、今後対応すべき課題もある。第一に、公的データの一部には、複数月にわたる欠損や未受領の項目が認められている。自治体と調整のうえ、不足データの再受領および確認を進め、解析可能な対象期間と対象者数を明確にする必要がある。第二に、郵送調査では、健康状態や生活状況等によって回答の得られやすさが異なる可能性があり、回答者と非回答者の特性の違いに留意する必要がある。第三に、本研究は現時点では特定地域および単一医療機関を中心として実施しているため、得られた知見の一般化可能性については、今後、多地域への展開を通じて検討する必要がある。

本研究では、新規に軽度の要介護認定を受けた者を対象とする発端コホートと、もの忘れ外来受診者を対象とする認知症者コホートについて、調査データと公的データを組み合わせた解析基盤を構築した。今後、両コホートにおいて、追跡調査データ、介護給付費情報、要介護認定調査情報および診療報酬明細情報の整備と統合を進める。これにより、軽度要介護者および認知症者の重度化予防、ウェルビーイング向上、在宅生活の継続に関連する要因を明らかにし、本人および家族介護者の視点を重視したケアモデルならびに地域支援の構築に資する知見を提供する。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Taiji Noguchi, Satoko Fujihara, Kazushige Ide, Seungwon Jeong, Tami Saito, Katsunori Kondo, Toshiyuki Ojima. Role of age-friendly communities on the association between informal caregiving and depressive symptoms: a multilevel analysis using the Japan Gerontological Evaluation Study. *Aging & Mental Health*, epub ahead of print, Mar 2, 2026.
- 2) Noguchi T, Jin X, Nakagawa T, Komatsu A, Saito T. Role of learning experiences of care knowledge and skills on caregiver burden and self-esteem among informal caregivers: an observational cross-sectional study. *Aging and Mental Health*, 23:1-10. 2026 Feb;30(2):393-402.
- 3) Xueying Jin, Ayane Komatsu, Taiji Noguchi, Takeshi Nakagawa, Sayaka Okahashi, Tami Saito. Xueying Jin, Ayane Komatsu, Taiji Noguchi, Takeshi Nakagawa, Sayaka Okahashi, Tami Saito. *BMC Health Services Research*, 26(1):284, Jan 28, 2026.
- 4) Hirakawa Y, Aita K, Saito T, Ishiyama R, Takanashi S, Shimada C, Miura H. Factors in Patient-Clinician Interactions That Influence the Decision-Making Process of Older Patients with Dementia. *JMA J*. 2026 Jan 15;9(1):173-179.
- 5) Hirakawa Y, Komatsu A, Saito T, Yamanaka T, Okochi J, Kuzuya M, Miura H. Provision of palliative care for patients with advanced dementia across various long-term care settings in Japan: a facility-based survey. *J Rural Med*. 2026 Jan;21(1):58-66.
- 6) Arisa Kawashima, Ayane Komatsu, Xueying Jin, Hiroyuki Shimada, Hidenori Arai, Tami Saito. Chronic pain and decline in activities of daily living among community-dwelling older adults: a systematic review of longitudinal studies. *Eur Geriatr Med*. 2025 Dec;16(6):2085-2096.
- 7) Noguchi T, Komatsu A, Okahashi S, Nakagawa T, Jin X, Shindo Y, Saito T. Association between driving status and visiting places among older adults in a suburban area in Japan: Findings from a cross-sectional survey. *Geriatr Nurs*. 2025 Nov-Dec;66(Pt B):103626.
- 8) Arisa Kawashima, Xueying Jin, Ayane Komatsu, Sakino Niwa, Hiroyuki Shimada, Hidenori Arai, Tami Saito. Individual- and Facility-Level Factors Related to Quality-of-Life Transitions in Older Adults in Residential Facilities: A Systematic Review. *J Am Med Dir Assoc*. 2025 Aug;26(8):105721.
- 9) Ayane Komatsu, Tami Saito, Yoshihisa Hirakawa, Sanae Takanashi, Reiko Ishiyama, Kaoruko Aita, Hisayuki Miura. Decision-Making Support for People Living With Dementia: A Nationwide Cross-Sectional Study in Diverse Long-Term Care Settings

- in Japan. *Psychogeriatrics*, 2025 Jul;25(4):e70059.
- 10) Nakagawa T, Noguchi T, Komatsu A, Jin X, Okahashi S, Saito T. Stability and change in life satisfaction in Japan before and during the COVID - 19 pandemic. *Applied Psychology: Health and Well-Being*, 2025 May;17(2):e70021.
 - 11) Tami Saito, Xueying Jin, Taiji Noguchi, Ayane Komatsu, Mariko Kanamori. Gender inequities in long-term care. World Health Organization, April 22, 2025.
 - 12) Jin X, Kawaguchi K, Noguchi T, Kondo K, Saito T. Association of Indoor Environment with the Intention to Enter Nursing Homes among Older Adults with functional limitations in Japan. *Journal of the American Medical Directors Association*, 2025 Feb;26(2):105383.
 - 13) Kawaguchi K, Saito T, Noguchi T, Kondo K. Housing Conditions and Quality of Life among Older Adults with Functional Limitations Living at Home: A Cross-Sectional Study from Japan Gerontological Evaluation Study-Home Care. *Journal of Public Health*, Dec16, 2024.
 - 14) 斎藤民. 高齢者の Well-being. 月刊地域医学 2024 年 11 月号, 2024/11/10.
 - 15) Noguchi T, Nakagawa T, Sugimoto T, Komatsu A, Kuroda Y, Uchida K, Ono R, Arai H, Sakurai T, Saito T. Behavioral and psychological symptoms of dementia and mortality risk among people with cognitive impairment: an 8-year longitudinal study from the NCGG-STORIES. *Journal of Epidemiology*. 2024 Nov 5;34(11):543-552.
 - 16) 小松亜弥音, 斎藤民. 多様な療養場所における認知症の人への意思決定支援の現状と今後の課題. *日本老年医学会雑誌*, 61(4):402-408, 2024/10/25.
 - 17) Kuroda Y, Goto A, Uchida K, Sugimoto T, Fujita K, Yokoyama Y, Nakagawa T, Saito T, Noguchi T, Komatsu A, Arai H, Sakurai H. Association Between Cancer Screening Patterns and Carer Literacy in Individuals With Cognitive Decline: An Observational Study. *Cancer Medicine*, 2024 Oct;13(20):e70311.
 - 18) Noguchi T, Jessica K Bone, Saito T, Kondo K, Hei Wan Mak. Arts and cultural engagement and subsequent social deficits among older adults: A three-year longitudinal study using the Japan Gerontological Evaluation Study. *Social Science & Medicine*, 356(8), 2024 Sep;356:117139.
 - 19) 石田敦子, 岡橋さやか, 植田郁恵, 李相侖, 中川威, 大沢愛子, 斎藤民. タブレット端末を用いた認知機能検査 NCGG-FAT の認知機能低下者における使用可能性の検討. *ヒューマンインタフェース学会論文誌*, 26(3):341-350, 2024/8/25.
 - 20) Bone JK, Noguchi T, Mak HW, Fancourt D, Kondo K, Saito T. Does arts and cultural group participation influence subsequent wellbeing? A longitudinal cross-country comparison of older adults in Japan and England. *BMJ Public Health*, 2024 Aug 24;2(2):e000865.

- 21) Noguchi T, Ikeda T, Kanai T, Saito M, Kondo K, Saito T. Association of Social Isolation and Loneliness With Chronic Low Back Pain Among Older Adults: A Cross-sectional Study From Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES). *J Epidemiol*. 2024 Jun 5;34(6):270-277.
- 22) Sugimoto T, Sakurai T, Uchida K, Kuroda Y, Tokuda H, Omura T, Noguchi T, Komatsu A, Nakagawa T, Fujita K, Matsumoto N, Ono R, Crane PK, Saito T. Impact of Type 2 Diabetes and Glycated Hemoglobin Levels Within the Recommended Target Range on Mortality in Older Adults With Cognitive Impairment Receiving Care at a Memory Clinic: NCGG-STORIES. *Diabetes Care*, 2024 May 1;47(5):864-872.
- 23) Sakaniwa R, Shirai K, Cadot D, Saito T, Kondo K, Kawachi I, Steptoe A, Hiroyasu Iso H. Socioeconomic status transition throughout life and risk of dementia. *JAMA Network Open*, 2024 May 1;7(5):e2412303.
- 24) 島田千穂, 会田薫子, 沢田淳子, 石山麗子, 二神真理子, 平川仁尚, 斎藤民, 高梨早苗, 小松亜弥音, 三浦久幸. 特別養護老人ホームの看取りケアマネジメントにおける多職種役割分担の特徴. *厚生の指標*, 71(4) : 19-27, 2024/4/18.
- 25) Kuroda Y, Sugimoto T, Satoh K, Nakagawa T, Saito T, Noguchi T, Komatsu A, Uchida K, Fujita K, Ono R, Arai H, Sakurai T. Relationship between mortality and vitality in patients with mild cognitive impairment/dementia: An 8-year retrospective study. *Geriatr Gerontol Int*. 2024 Mar;24 Suppl 1:221-228.
- 26) Komatsu A, Nakagawa T, Noguchi T, Jin X, Okahashi S, Saito T. Decision-making involvement and onset of cognitive impairment in community-dwelling older care recipients: a 2-year longitudinal study. *Psychogeriatrics*. 2024 Mar;24(2):195-203.
- 27) Koga C, Saito T, Hanazato M, Kondo N, Saito M, Ojima T, Kondo K. Living in public rental housing is healthier than private rental housing a 9-year cohort study from Japan Gerontological Evaluation Study. *Scientific Reports*. 2024 Mar 30;14(1):7547.
- 28) 伊藤大介, 斎藤民, 村田千代栄, 近藤克則. 高齢者における地域包括支援センター等への援助要請意図と地域のソーシャル・キャピタルの関連—マルチレベル横断研究—. *老年社会科学* 2024;45(4):327-337.
- 29) Noguchi T, Nakagawa T, Jin X, Komatsu A, Togashi S, Miyashita M, Saito T. Development of a short form of the Japanese version of the Caregiver Reaction Assessment (CRA - J - 10) among informal caregivers of older adults. *Geriatrics & Gerontology International*. 2024;24(3):290-296.
- 30) Okahashi S, Noguchi T, Ishihara M, Osawa A, Kinoshita F, Ueda I, Kamiya M, Nakagawa T, Kondo I, Sakurai T, Arai H, Saito T. Dyadic Art Appreciation and Self-Expression

Program (NCGG-ART) for People with Dementia or Mild Cognitive Impairment and Their Family Caregivers: A Feasibility Study. Journal of Alzheimer's Disease. 2024;97 (3):1435-1448.

2. 学会発表

- 1) 中島由登, 李相侖, 宇田和晃, 斎藤民. 高齢者にやさしい病院の構成要素に関する文献レビュー: 概念的枠組みの構築に向けて. 第4回日本老年療法学会学術集会. 2025/12/6. 東京都.
- 2) 牧 美里, 岡橋 さやか, 小松 亜弥音, 進藤 由美, 李 相侖, 斎藤 民. フロアガイドの作成と有用性に関するアンケート調査: エイジ・フレンドリー・ホスピタルを目指して. ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025. 2025/9/12. 石川県.
- 3) 岡橋 さやか, 牧 美里, 大浦 智子, 植田 郁恵, 小松 亜弥音, 進藤 由美, 李 相侖, 大沢 愛子, 斎藤 民. 一商業施設における表示の改良による使用しやすさに関する調査: 認知症の人にもやさしい環境に向けて. ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025. 2025/9/12. 石川県.
- 4) 小松亜弥音, 野口泰司, 金雪瑩, 岡橋さやか, 斎藤民. 軽度・中等度要介護者への介護サービス提供における共有意思決定の実施上の困難. 日本老年社会学会第67回大会. 2025/6/29. 千葉県.
- 5) 野口泰司, 中川威, 金雪瑩, 小松亜弥音, 斎藤民. 家族介護者の経済的負担と自死念慮の関連-社会的つながりの緩和影響-. 日本老年社会学会第67回大会. 2025/6/29. 千葉県.
- 6) 佐久間直美, 瀬瀬伸子, 飯田真由美, 燕真理子, 加賀谷斉, 近藤和泉, 斎藤民. 日本老年看護学会第30回学術集会「高齢者と認知症の人にやさしい接遇研修の開発(第1報)」. 2025/6/29. 千葉県.
- 7) Taiji Noguchi, Hei Wan Mak, Jessica K Bone, Tami Saito, Daisy Fancourt. Motor dysfunction and mental well-being in later life: a longitudinal study in 15 countries. World Physiotherapy Congress 2025. May 31, 2025. Tokyo, Japan.
- 8) 野口泰司, 河口謙二郎, 藤原聡子, 金雪瑩, 近藤克則, 斎藤民. 要介護高齢者のアートエンゲージメントと主観的ウェルビーイング: JAGES_Home Care. 第35回日本疫学会学術総会. 2025/2/14. 高知県.
- 9) 斎藤民. 認知症の人の社会参加. 第90回教育講演. 2025/2/3. オンライン.
- 10) 斎藤民. Toward age- and dementia-friendly cities: Facilitating social participation in people with dementia. 5th Thailand Elderly Health Service Forum 2025. 2025/1/24. Bangkok, Thailand.
- 11) 斎藤民. Stigma, social participation, and well-being in people with dementia. Western Pacific Rim Consortium on Healthy Aging 2024. 2024/11/28. 愛知県.

- 12) 岡橋さやか, 小松亜弥音, 中川威, 野口泰司, 金雪瑩, 進藤由美, 斎藤民. 認知症要介護者の外出行動の実態(NCGG-UniCo)第2報:行きたい場所. 第43回日本認知症学会学術集会. 2024/11/21. 福島県.
- 13) 野口泰司, 小松亜弥音, 岡橋さやか, 中川威, 金雪瑩, 斎藤民. 地域在住高齢者における自動車運転と外出場所の多様性との関連:NCGG-UniCoプロジェクト. 第11回日本予防理学療法学会学術大会. 2024/11/9. 宮城県.
- 14) 小松亜弥音, 金雪瑩, 川島有沙, 斎藤民. 介護施設入所者の QOL 変化の関連要因:系統的レビュー. 第83回日本公衆衛生学会総会. 2024/10/31. 北海道.
- 15) 小松亜弥音, 金雪瑩, 川島有沙, 斎藤民. 介護施設入所者における生活機能低下に関連する要因の検討:文献レビュー. 第83回日本公衆衛生学会総会. 2024/10/30. 北海道.
- 16) 金雪瑩, 河口謙二郎, 野口泰司, 斎藤民. 要介護高齢者の住宅環境と介護施設入所意向: JAGES 在宅ケアとくらしの調査. 第83回日本公衆衛生学会総会. 2024/10/29. 北海道.
- 17) 小松亜弥音, 中川威, 野口泰司, 金雪瑩, 岡橋さやか, 進藤由美, 斎藤民. 認知症高齢者の外出行動の実態(NCGG-UniCo)(第1報):外出場所の特徴. 第13回日本認知症予防学会学術集会. 2024/9/28. 神奈川県.
- 18) 牧美里, 岡橋さやか, 小松亜弥音, 進藤由美, 斎藤民. 病院利用者における道迷いと対応状況に関する職員へのアンケート調査:施設環境の改善案検討. ヒューマンインタフェースシンポジウム 2024. 2024/9/18. 京都府.
- 19) 岡橋さやか, 加藤健治, 霜鳥大希, 進藤由美, 斎藤民. 認知症高齢者と家族に対する交流型アートプログラム(NCGG-ART)の予備的効果検証:会話及び心拍変動の分析. 生体医工学シンポジウム 2024. 2024/9/14. 東京都.
- 20) Taiji Noguchi, Jessica K Bone, Tami Saito, Katsunori Kondo, Hei Wan Mak. Association between arts and cultural engagement and subsequent social deficits among older adults in Japan: a longitudinal study using the Japan gerontological evaluation study. Society for Social Medicine & Population Health 68th Annual Scientific meeting. 2024/9/4. Glasgow, United Kingdom.
- 21) 野口泰司, 金雪瑩, 中川威, 小松亜弥音, 斎藤民. 家族介護者における介護の知識や技術の習得経験と介護負担の関連. 第3回日本老年療学会学術集会. 2024/8/3. 北海道.
- 22) 斎藤民. 認知症ケアと疫学. 第25回認知症ケア学会大会日本老年社会学会共催シンポジウム「認知症ケアにおける老年社会科学の役割」. 2024/6/15. 東京都.
- 23) 小松亜弥音, 中川威, 野口泰司, 進藤由美, 内田一彰, 杉本大貴, 黒田佑次郎, 櫻井孝, 斎藤民. もの忘れ外来受診患者の家族が経験する患者の健康と生活に関する困難な意思決定:NCGG-STORIES. 日本老年社会学会第66回大会. 2024/6/1. 奈良県.
- 24) 斎藤民. 指定討論「自然と健康になるまちづくり」. 日本老年社会学会第66回大会. 2024/6/1. 奈良県.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし